

事例5 愛着を持ち、成就感や達成感を得られる栽培活動を設定した事例

- 学年 第2学年
- 主な領域 動植物の飼育・栽培 内容(7)
- 事例のポイント
 - ①愛着をもって育て、達成感を味わわせるための工夫をする。
 - ②意欲的、継続的に世話をを行うための工夫をする。
 - ③伝え合い交流する場を設定する。

1 単元名 「ぐんぐんそだてわたしの野さい」 (10時間)

2 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、1年生のときにアサガオを育てる経験をしている。そこで、大切に育てることで元気に育つことを学んでおり、育てる喜びと楽しさを経験している。事前に行ったアンケートでは、95%の児童が「生活科が好き」と回答し、生活科に対する意識の高さがうかがえる。また、2年生になった今も家でアサガオやヒマワリなど継続して野菜を育てている児童も多いことから、野菜を育てることに喜びを覚えていることがわかる。

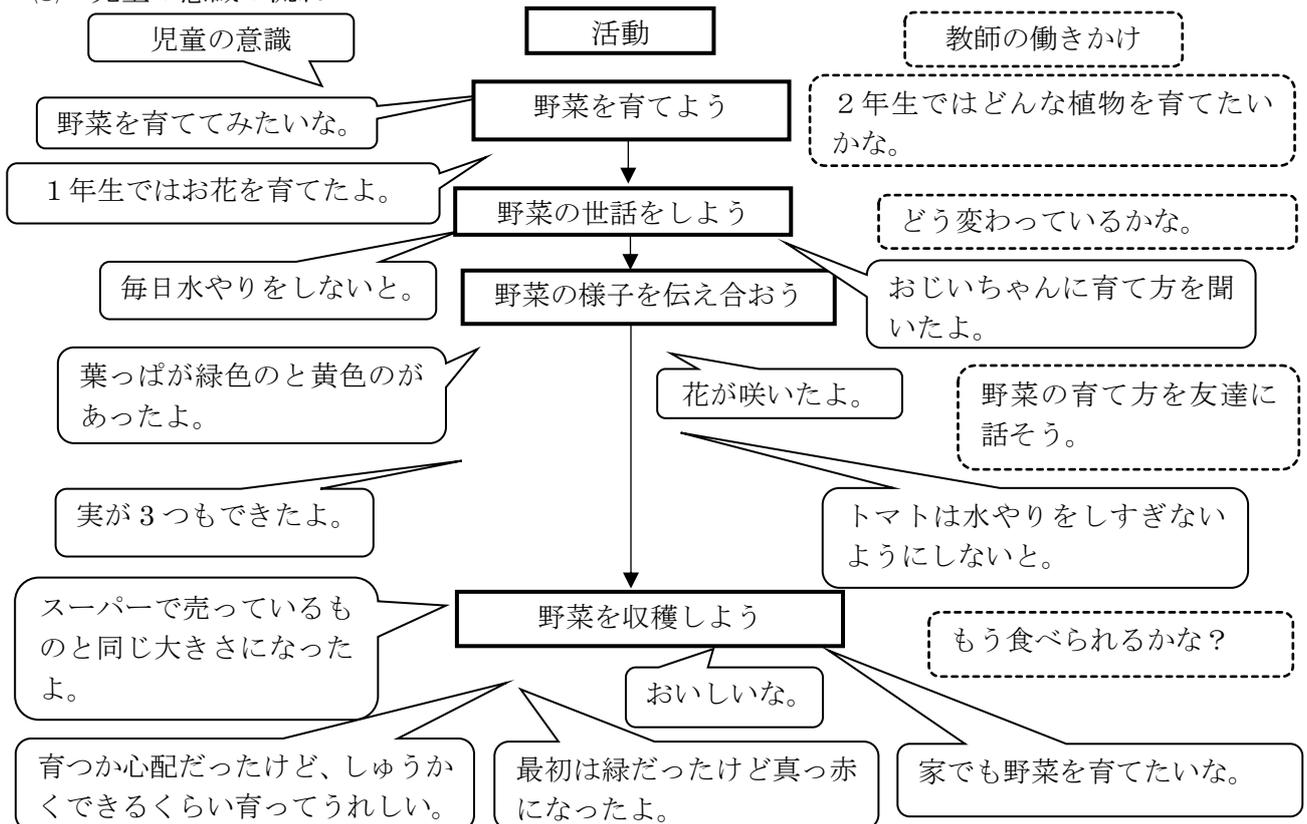
本単元では、自分で育てた野菜を収穫して食べることを心待ちにし、児童が愛着をもって栽培活動を行えるようにしていきたい。

(2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

本単元は児童の実態と小学校学習指導要領の内容(7)を受けて設定したものである。ここでは、野菜を育てる活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、野菜に愛着をもって、大切にしようとすることを目指している。

単元を構成するにあたっては自分の育てる野菜に愛着をもち、意欲的、継続的に栽培活動を行うことを大切に単元を構成していく。また、単元を通して、野菜にも生命があることや成長すること、それらを大切に育てていく自分に気付き、野菜を育てていく楽しさや喜びを味わえるようにしていきたい。

(3) 児童の意識の流れ



3 単元の目標

野菜を継続的に栽培する活動を通して、これまでの経験を基に、野菜の変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、野菜が生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、野菜に愛着をもって、大切にしようとするすることができるようにする。

4 単元の評価規準と小単元の評価規準 (10 時間扱い)

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		野菜を継続的に栽培する活動を通して、野菜が生命をもっていることや成長していることに気付いている。	野菜を継続的に栽培する活動を通して、野菜の変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	野菜を継続的に栽培する活動を通して、野菜に愛着をもって、大切にしようとしている。
小単元における評価規準	1		①自分の育てたい野菜を、栽培する時期や場所などの条件で分類しながら、これから育てる野菜を決めている。	①自分の育てたい野菜を決め、成長や収穫を期待しながら苗を植えようとしている。
	2	①自分の育てている野菜が成長していることに気付いている。 ②育てている野菜に合った世話の仕方があることに気付いている。	②野菜の状態に合わせて関わり方を見直しながら、適切な世話をしている。 ③今までの経験や身近な人に聞いたことなど基に、野菜の成長の様子を思い描きながら世話の仕方を決めている。	②育てている野菜に親しみや愛着をもち、生命あるものとして大切に関わろうとしている。 ③育てている野菜の状況に応じて、世話の仕方を変えようとしている。
	3	③育てている野菜によって成長のしかたや世話のしかたに違いがあることや、同じような特徴や性質があることに気付いている。	④友達と自分の世話に仕方を比べながら、自分の野菜に適した世話の仕方を決めている。	④世話をして気付いたことや思いなどを友達と進んで交流しようとしている。
	4	④自分が世話を工夫したことで、野菜が大きく視聴したことに気付いている。 ⑤上手に世話ができるようになった自分や友達の成長に気付いている。	⑤育ててきた野菜のことや心を寄せて世話をしてきたことを振り返り、自分なりの方法を選んで表現している。	⑤野菜を育てることのよさを実感し、これからも継続的に生き物と関わろうとしている。

5 指導と評価の計画 (主に小単元2について)

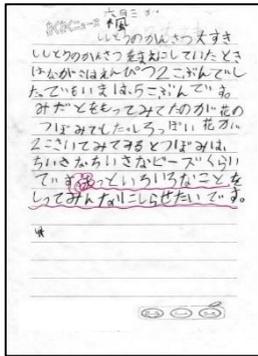
編 P87 指導計画作成留意事項(6)

小単元名	主な学習活動		
1 野さいをそだてよう(2)	今までの経験を想起したり話し合ったりしながら、自分で栽培する野菜を決め、苗を植える。		
2 野さいのせわをしよう(3)	主な活動	小単元の評価規準との関連	評価規準から想定した具体的な子供の姿 (評価方法)
	○野菜の様子を観察し、必要に応じた	知・技 ①	・野菜の成長の変化や花や実の特徴などを絵や文にして記録して

<絵と文>

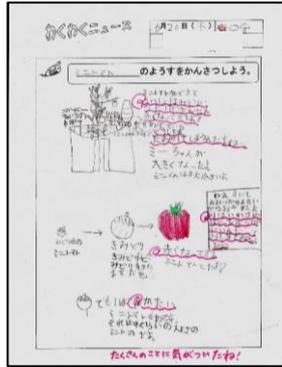


<文字のみ>

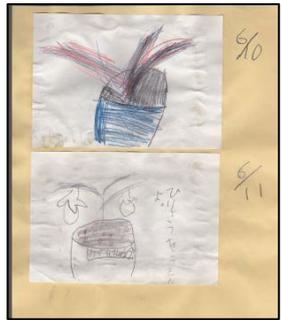


世話をする。

<自由>



<写真用紙>



思・判・表 ②

態 ②

いる。(発言・カード)

- ・ 1年生のアサガオの世話を思い出し、水やりや草取りなど必要な世話をしている。(発言・カード)
- ・ 休み時間も続けて世話をしたり、気付いたことを友達に伝えたりしている。(行動・カード)

事例のポイント②

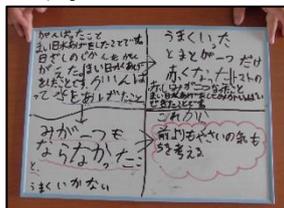
観察カードは絵と文、文字のみ、自由、写真用紙など数種類印刷しておき、記録したいと思ったときにいつでも観察できるようにして、意欲をもたせる。休み時間も自由に使えるようにした。

編 P87 指導計画作成留意事項(2)

○野菜の様子を紹介し合い、必要な世話について話し合う。

知・技 ②

- ・ 育てている野菜によって成長の仕方や世話の仕方が違うことに気付いている。(発言・カード)



思・判・表 ③

態 ③

- ・ 野菜の状態に合わせて追肥をしたり、わき芽をかいいたり適切な世話をしている。(行動・カード)
- ・ 野菜の状況に応じて、詳しい人に世話の仕方を聞いたり、本や図鑑などで調べたりして世話の仕方を変えようとしている。(行動)

事例のポイント③

同じ野菜のグループで、頑張っていることや、困っていることなどを報告し合うことで、友達のがんばりやよさを認め合い、今後の世話の仕方の工夫につなげていくようにした。

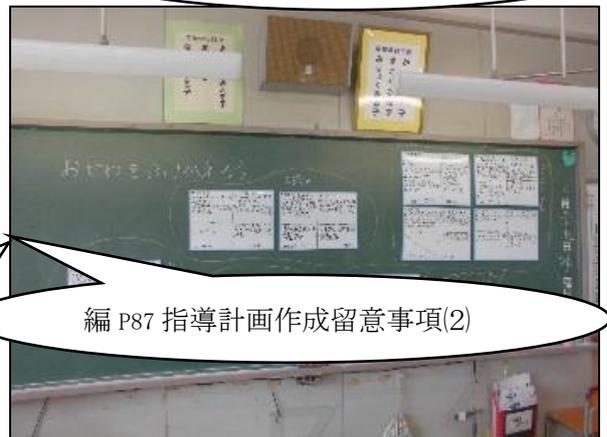
編 P87 指導計画作成留意事項(2)

3 野さいのようすをつたえ合おう(2)

○野菜の成長を報告し合い、育てている野菜の成長の様子や世話の仕方を紹介し合い、気付いたことを記録カードに書く。

事例のポイント③

それぞれの野菜の様子や育て方を紹介することで、育てている野菜の成長の様子や世話の仕方を比べ、自分の野菜に適した育て方を考えられるようにした。



編 P87 指導計画作成留意事項(2)

<p>4 野さいをしゅうかくしよう(3)</p>	<p>野菜の様子を観察し、熟した野菜を収穫し、世話を振り返ったり、気付いたことを紹介し合ったりする。</p> <div data-bbox="478 208 1077 392" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント① 自分で選んだ野菜を自分の鉢で育てて収穫することで、達成感を味わわせるようにした。</p> </div> 
--------------------------	--

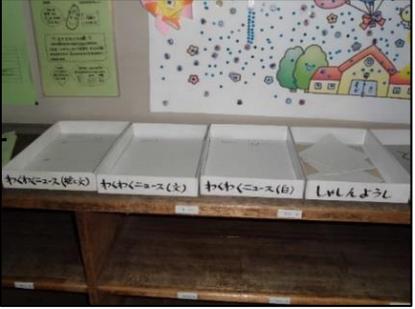
6 本時の学習 (4/10時)

(1) 目標

野菜の成長の様子や世話の仕方について話し合う活動を通して、自分の野菜の状態を把握し、これまでの野菜の変化や世話の仕方について、友達に伝えたり、相談したりすることができるようにする。

(2) 展開

児童の活動・意識	評価 (●) と支援 (○)	時間
<p>1 本時の活動を確認する。</p> <div data-bbox="167 795 566 896" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>野菜のようすをともだちに しらせよう</p> </div>	<p>○児童の観察カードやつぶやきの記録により野菜に対する思いや各々の野菜の成長の様子を事前に把握し、適切な助言ができるようにしておく。 ○観察の記録だけでなく、自分の気持ちや思いも書かせることにより、活動の振り返りに活用できるようにする。</p>	3
<p>2 自分の野菜の様子や世話したことを観察カードに記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はっぱがだんだんふえてきた。 ・花がかけると、みができてきた。 ・もうすぐ食べられそうだ。 ・実が大きくなってきてうれしい。 ・トマトははっぱもトマトのにおいがした。 ・ひりょうを入れたら元気になった。 ・早く食べたい。 	<div data-bbox="622 974 1029 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>事例のポイント① 自分で選択した野菜に名前を付け、愛着をもって野菜の世話ができるようにした。</p> </div> <div data-bbox="622 1288 1300 1512" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p>事例のポイント② 今までの観察ファイルや図鑑・野菜の本を準備しておき、いつでも見られるようにした。</p> </div>	20
<p>3 野菜の成長の様子や世話の仕方について話し合う。 グループ→全体で発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマトは水をあげすぎないほうがいいらしいよ。 ・水だけでなく、太陽にあてあげることも大切だよ。 ・ナスはなかなか大きくなならない。トマトはどんどん色が変わってくるのがおもしろい。 	<div data-bbox="590 1646 1380 1803" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント③ 同じ野菜の友達と観察し合い、情報交換することで、今後の栽培活動の工夫につなげていくようにした。</p> </div> <div data-bbox="630 1803 1013 2072" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <div data-bbox="1013 1825 1380 2072" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px;"> <p>図鑑と同じ色になってきたから、もうすぐ食べられそうだね。</p> </div>	15

<p>・栽培委員の先生が油粕というのをいれるといいと教えてくれたよ。</p> <p>4 本時の活動を振り返り、気付いたことや思ったことを発表する。</p> <p>5 これからの活動について知る。</p>	<p>●野菜の状況に応じて、友達に聞いたり、本や図鑑で調べたりして世話の仕方を変えようとしている。【態一③】 (行動)</p> <p>○それぞれのグループで話し合ったことを全体で発表し合い、野菜全体のことを考えられるようにし、今後の栽培活動の工夫につなげていくようにする。</p> <p>●育てている野菜によって成長の仕方や世話の仕方が違うことに気付いている。【知・技一②】 (発言・カード)</p>	<p>5</p>
<p>事例のポイント② 授業時間に関わらず、気になったときにいつでも記録できるよう、教室内に記録用紙を置いておくようにした。</p>		<p>2</p>

7 本実践を振り返って

本単元は一人一人が「自分の野菜を育てる」という思いをもち、意欲的に世話が続けられるように学習を進めた。そのための手立てとして、決められた野菜を育てるのではなく自分の鉢で育てられそうな野菜を自ら選択することから始めた。野菜にはそれぞれ名前をつけ、「わたしの〇〇〇」と紹介することで愛着を持てるようにした。授業時間だけでなく、帰りの会でも「今日の〇〇ちゃん」という時間を設け、隣の席の友達に毎日自分の野菜の様子を報告するようにした。教室には図鑑を置いていつでも調べられるようにしたり、数種類の記録用紙を準備して書きたいときに自由に記録できるようにしたりすることで、意欲を高めた。また、記録した用紙はファイルに綴じて保管し、いつでも互いに見ることができ、振り返ることができるようにした。児童のファイルを見ると、毎日記録している児童や、自主学习で野菜のことを調べる児童がいて、愛着をもち大切に育てている様子がわかった。

本学習を終えた後にも野菜の栽培に興味をもち、家で別の野菜を育てた児童もいた。



(家庭で野菜を栽培した児童のノートの様子)

また、1年生のときにアサガオをうまく育てられなかったと感じていたが、2年生になりトマトを育てることができたことに喜びを感じる児童もいた。

今後も、児童が試行錯誤しながら学びを深め、達成感を味わえる活動を実践していきたい。

